◎問題別正答率の状況

【小学校】

■国語■

漢字の読み書きや基礎的な内容がよく定着しており、国語Aは、全国平均を上回っていました。しかし、「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く」や「複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く」などが、苦手であるという結果も見られました。

■算数■

基本的な「計算問題」や「図形の問題」はよくできていましたが、「概数の問題」は全国より正答率が10ポイント近く下回っていました。

また、文章問題では、「自分の考えを書くこと」や「理由を書いて説明すること」などが課題であるという結果も見られました。

このように、基礎的な知識や技能の定着は一定図られているものの、国語・算数ともに、「書く」ことが課題であることが明らかになりました。

今後、授業の中で、自分の考えをまとめたり、目的や意図に応じ、必要な内容を引用したり、複数の内容を関係付けたりしながら「書く」活動を取り入れ、力をつけていく必要があります。

【中学校】

■国語■

「希望」「均等」「帯」を漢字で書く問題では、すべて平均正答率は、全国平均を2～3ポイント上回っていました。

しかし、「敬語の働きについて理解する」問題や、「根拠を明確にして自分の考えを書く」問題については、全国より10ポイント以上、下回っていました。

■数学■

基本的な計算問題では、全国平均とほぼ同等の結果が出ていました。

また、「証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ」問題では、平成22・23年度には、平均正答率は約50％でしたが、今回は80％を超える結果となり、一定の成果が見られました。

中学校では、国語・数学ともに、内容を的確に捉え、自分の考えを書くことや、根拠を上げて説明する問題の平均正答率が低い傾向にありました。今後は、自分の考えをまとめたり、筋道を立てて説明したりすることを重点的に取り組むことが求められています。

◎質問紙調査の結果

「児童生徒質問紙調査」では、子どもたちの学校・家庭・地域での生活や、学習への関心・意欲に関することなどについて調査がありました。

「朝食を毎日食べていますか」

小学生の91％、中学生の約83％が、「食べている」と答えています。また、「早寝、早起き」「家庭学習」等の設問についても、全体的に全国や県と比較してよい結果が見られました。

「家の人と学校での出来事について話をしていますか」

「地域の行事に参加していますか」

全国や県と比べて数値が低い結果になっていました。家族や地域の人とコミュニケーションがとれていないことは、子どもたちの成長にとって、課題であると言えます。

「将来の夢や目標を持っていますか」

小学生が91％、中学生は80％が肯定的な回答をしており、全国や高知県より、高い傾向がみられました。

須崎市では、子どもたちに「夢や志を持ち、自分の未来を切り開いていく力」をつけていきたいと考え、本年度から「キャリア教育※」の3年間の指定を受けています。

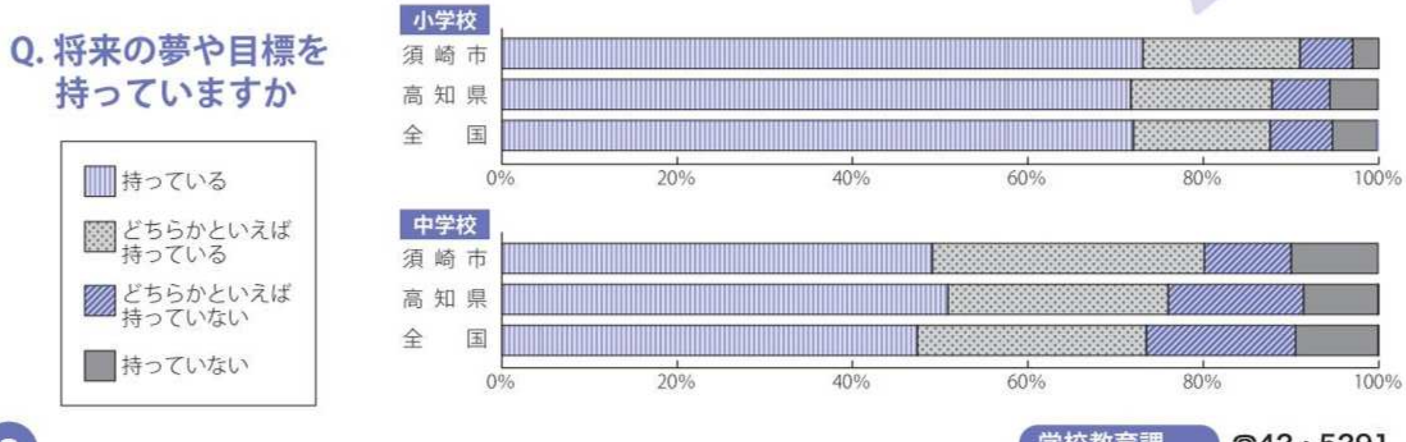
現在も、各学校において、自らの生き方を考えたり、職業について調べたり、また、地域に出て体験活動を行ったりしながら、将来につながっていく取り組みを行っています。

※キャリア教育
子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力をつける教育。（文部科学省）

◎教育委員会から

教育委員会では、今後も学校を支援していきながら、学力向上や課題改善のための方策をより効果的に行っていきたいと考えています。

家庭では、日々の家庭学習の確認や、睡眠時間や食事などの生活リズムを整える働きかけを今後も続けていただきたいと思います。子どもたちの健やかな成長のために、ご協力をよろしくお願いします。



学校教育課 ☎42・5291